

調査報告

教育改革激動の渦中で
親子コミュニケーションと
高校に求められることは変化しているか

改革初年度となる親子は「高大接続改革」をどう見ているか

第9回となる今回の調査は、大学入学共通テスト導入初年度にあたる高校2年生とその保護者が「高大接続改革」をどのようにとらえているかを大きなテーマとして設計した。文部科学省が「民間の英語資格試験」と「大学入学共通テスト」の記述式問題」の導入実施を見直す前の昨年9

10月に実施、その時点での高校生と保護者の意識を探っている。設問の前に、この改革が、「高校教育」「大学教育」「入学者選抜」の三位一体の教育改革であること、そしてこれから生きる子どもたちのために「新しい学力の3要素」として①知識・技能②思考力・判断力・表現力③主体

性・多様性・協働性の育成が求められることを明記。そのうえで、現在進められている教育改革の内容についての「期待」と「不安」をたずねた。この報告では、さらに改革初年度の保護者の子どもへの進路選択への関わりの変化や、高校教育への要望を明らかにしていく。

Part

1

入学者選抜改革への評価

「学力の3要素」の総合的な評価へは
期待のきざし

「入学者選抜」の改革についての期待と不安を比較すると(図1)、昨年導入が見送られた記述式や英語について

の項目「現在の『大学入試センター試験』が、記述式問題も出題される『大学入学共通テスト』に変わる」「英語に

ついて4技能が評価される」「民間が実施している英語資格試験が活用されるようになる」に対して、調査時点でも高校生、保護者共に大きな不安を抱えていたことがわかる。また「各大学の個別入試では、筆記試験に加えて小論文や面接、ポートフォリオなどで主体性が評価される」も、親子共に過半数が期待よりも不安を覚えている結果となった。

調査概要 一般社団法人全国高等学校PTA連合会×株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 合同調査

- 調査対象／全国の高校2年生とその保護者(全国高等学校PTA連合会より依頼した9都道府県の公立高校27校／2年生2クラスの生徒とその保護者)
- 調査期間／2019年9月1日(日)～2019年10月25日(金)回収終了
- 調査方法／①高校生／ホームルームにてアンケートに回答 ②保護者／高校生から保護者へアンケートを手渡し ③学級担任が高校生分と保護者分を取りまとめ、その後学校責任者が学校分として返送
- 有効回答数／高校生1,997、保護者1,759 ※全問無回答を除く ※図1,2,9は調査対象校のうち1校において集計対象から除外している。
- 調査実施／株式会社アンド・ディ

【回答者プロフィール】

- 高校生
- 性別／男子47.0% 女子48.5% その他1.1% (無回答3.4%)
 - 高校タイプ／普通科71.3% 専門学科21.8% 総合学科6.9%
 - 地域分布／北海道11.5% 青森県11.3% 山梨県11.2% 東京都11.9% 石川県11.8% 愛知県10.5% 和歌山県10.5% 鳥取県11.7% 熊本県9.7%
 - 高校卒業後の希望進路／大学72.1% 短大1.7% 専門職大学0.5% 専門職短大0.2% 専門学校9.1% 海外の大学等0.3% 就職15.0% その他0.9% (無回答0.5%)

- 保護者
- 続柄／父親11.6% 母親85.3% その他0.5% (無回答2.6%)
 - 子どもの性別／男子47.4% 女子50.0% その他0.2% (無回答2.4%)
 - 地域分布／北海道9.4% 青森県12.6% 山梨県12.5% 東京都11.9% 石川県12.3% 愛知県9.8% 和歌山県9.1% 鳥取県13.0% 熊本県9.4%
 - 子どもに対する高校卒業後の希望進路／大学57.2% 短大1.1% 専門職大学1.5% 専門職短大0.3% 専門学校3.7% 海外の大学等0.2% 就職9.9% その他0.6% 子どもが希望する進路なら何でもよい23.6% (無回答1.8%)

※詳細な報告書はリクルート進学総研Webサイトに掲載します

フリーコメント1 /

【入学者選抜】
改革への期待と不安

<高校生の期待>

- 自分という人間の全体を見て評価してもらえる(東京都/男子/大学)
- 学力以外の面も総合的に評価されるかもしれない(北海道/女子/大学)
- 成績や学力だけでなく、高校での活動も、知ってもらえる(東京都/女子/大学)
- 学力だけではわからない一人ひとりの個性や能力を見てくれる(熊本県/女子/大学)
- 英語が4技能になったので、社会でより使えるようになる(愛知県/男子/大学)

<保護者の期待>

- 暗記するだけでは対応できない大学入試に変われば日本の教育制度自体が変化する可能性がある(鳥取県/母親/大学)
- 学力だけではなく生徒個々人の才能が発見されやすくなる(山梨県/母親/大学)
- 学力だけではなく個々の能力を以前よりも丁寧に伸ばしてもらえそう(青森県/母親/大学)
- 学力評価(AO入試・推薦入試)が必須。学ぶ意味・理由につながる(東京都/母親/大学)

<高校生の不安>

- 共通テストへ変わるのに詳細がよくわからない(青森県/女子/大学)
- テストが変わると過去問もなく、対策のしようがない(東京都/男子/大学)
- 外部検定を経済的理由により受けられない人がいること(山梨県/女子/大学)
- 大勢が受けるテストを筆記にすることで公正・公平な採点ができるのか(鳥取県/女子/大学)
- 評価基準が広くなり、すべてに力を注げる心配(石川県/女子/短大)

<保護者の不安>

- 教育改革の内容が入試と英語資格試験の情報に偏りすぎていて本質が見えない(青森県/母親/何でもいい)
- 大学入学共通テストの改革発表(英語外部試験)が遅い。記述式採点は採点者によって差が出ないか(石川県/母親/大学)
- 一人ひとりの力を本当に正しくはかれるのか(青森県/母親/何でもいい)
- 前例がないので子どもから質問があったときにいいアドバイスができない(東京都/母親/大学)

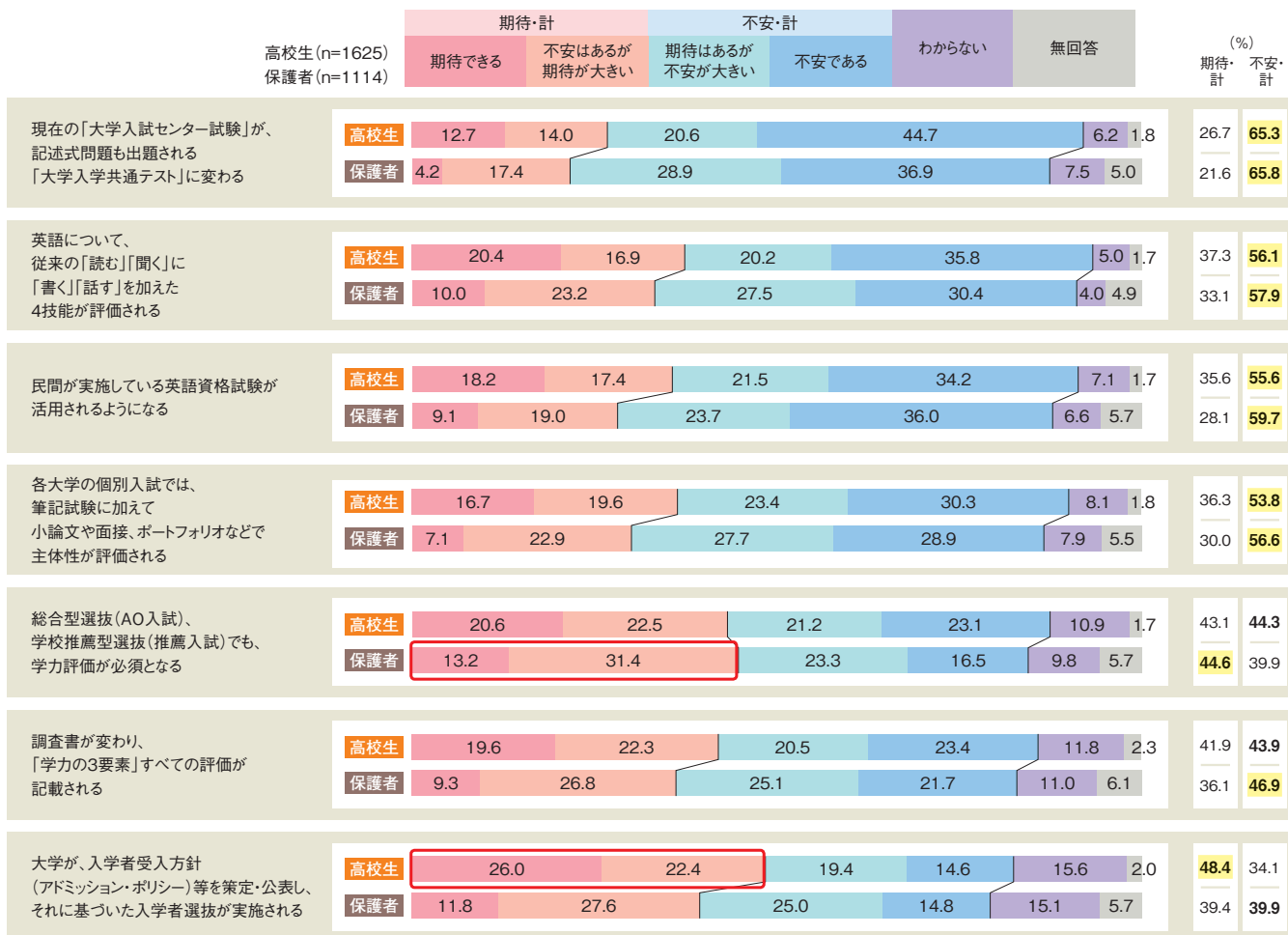
一方、期待が高いのは、高校生では「大学が、入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)等を策定・公表し、それに基づいた入学者選抜が実施される」で、期待が48%と不安を14ポイント上回った。保護者では「総合型選抜(AO入試)、学校推薦型選抜(推薦入試)でも、学力評価が必須となる」で期待が45%と、不安(40%)を上回る。

「人間全体を見て評価する」
入試への変化に期待

フリーコメント1を見ると、高校生からは入試学力以外の面も評価されることで、「自分の全体を見て評価してもらえ」「個性や能力を見てくれる」と歓迎の声があがる。保護者からは「暗記するだけでは対応できない大学入試に変われば日本の教育制度自体が変化する可能性がある」とのコメントに代表されるように、既存の教育が変わっていくことへの期待が述べられるなど、高大接続改革の趣旨が伝わっている様子もうかがえた。

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は、高校生[都道府県/性別/希望進路]、保護者[都道府県/続柄/希望進路]

図1 【入学者選抜】に関する教育改革への期待と不安 (高校生：進学希望者、保護者：子どもを進学させたい希望者/各単一回答)



ICT、アクティブ・ラーニング、探究：

大きな期待が寄せられる高校教育改革

ICTによる個別最適化学習に
高校生の7割が期待

一方、高大接続改革に関する設問のうち、「高校の教育」の改革内容については、保護者も高校生も期待が大きい結果となった(図2)。

特に高校生の期待の1位「ICT技術を活用し、一人ひとりが最適な学習内容と進度で学べるようになる」は「期待できる」が42%と突出、「期待・計」は7割に及ぶ。2位は「先生が知識を教え込む授業から、生徒が主体的に考え、学び合う授業に変わる」(63%)。保護者の1位は、高校生の3位「生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される」で共に62%に上っている。

ここ数年取り組まれてきたアクティブ・ラーニングや、今後推進される探究学習へ親子とも期待が高いことがわかった。

「生徒自身が基礎学力の定着を把握する高校生のための学びの基礎診断」の開始や「学んだことや経験したことを振り返り、次の目標を立てるポートフォリオ」導入も含め、高校教育改革

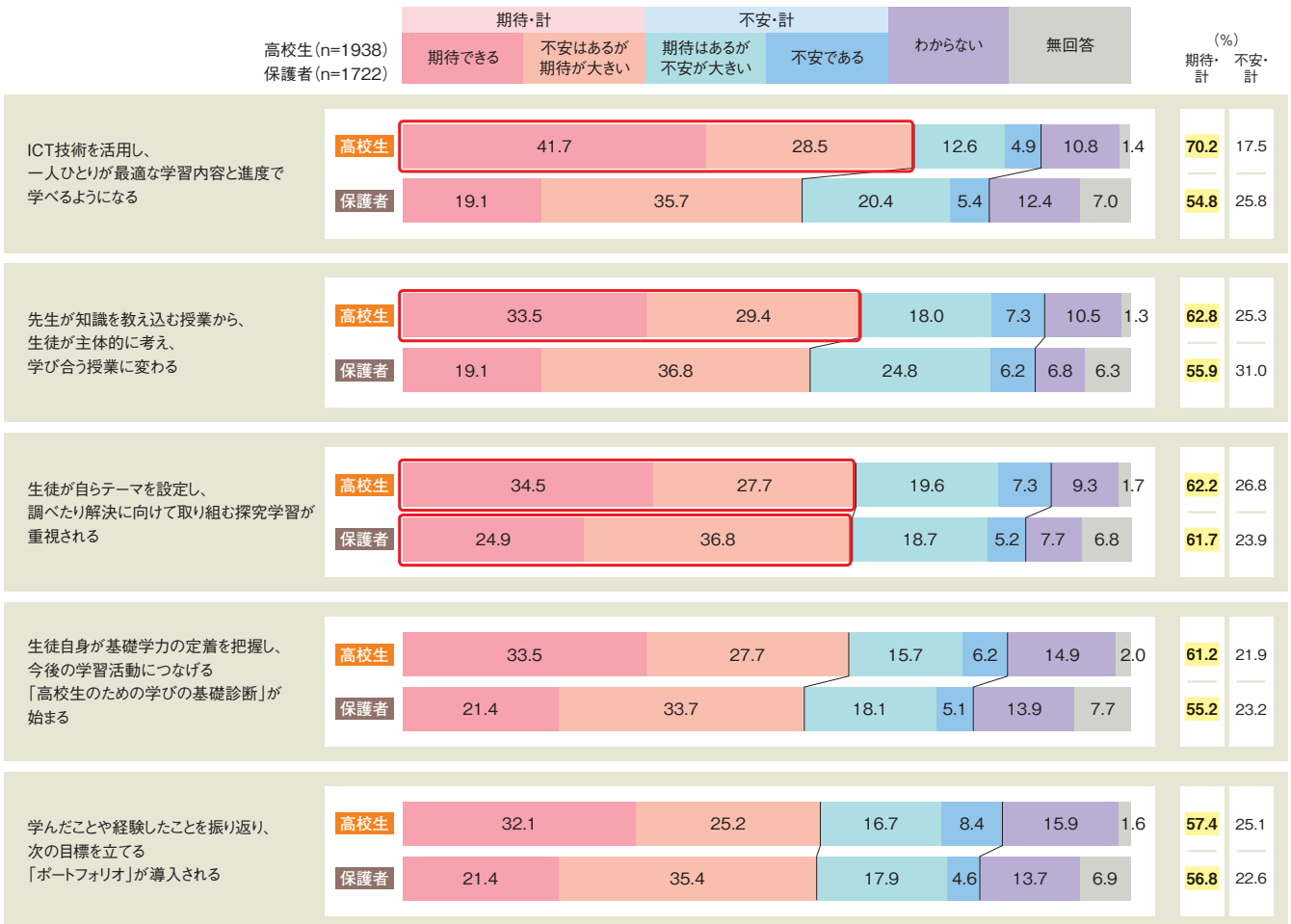
のすべての項目で高校生、保護者共に「期待」が5割を超え、「不安」を大きく上回っており、改革の方向性が広く受け入れられていることがわかる結果となった。また、高校生はすべての項目で保護者を上回っており、当事者としての学習のあり方が変わることへの大きな期待が感じられる。

改革への期待の理由を見ると(フリコメント2)、高校生からは「学び合う授業なのでわからないことが聞きやすくなる」「苦手な学習内容を自分のペースで学習できる」など個々人を尊重する流れへの期待、保護者からは「暗記型ではなく自ら考えて行動できる人を育成する取組」「学力の3要素が向上するカリキュラムに期待」など、これからの社会で必要とされる能力が身に付くことへの期待が挙げられている。

一方、不安の理由を見ると、高校生、保護者共に、改革によって求められることが増えたり、レベルが高まったりすることについていけるのか、加えて教員が変化に対応できるのかという不安が保護者は感じているようだ。

入学者選抜の具体的な手段については不安が高いが、「学力の3要素」の

図2 【高校の教育】に関する教育改革への期待と不安 (高校生・保護者／各単一回答)



※高校生「期待・計」の降順ソート

※「期待・計」と「不安・計」の差が4ポイント以上高い数値を黄色で表示

フリーコメント2 /

【高校の教育】の
改革への期待と不安

＜高校生の期待＞

- 学び合う授業なのでわからないことが聞きやすくなる（鳥取県／女子／大学）
- 苦手な学習内容を自分のペースで学習できる（山梨県／男子／就職）
- 社会に出るまでに社会人基礎力がある程度付くと思う（熊本県／女子／大学）

＜保護者の期待＞

- 暗記型ではなく自ら考えて行動できる人を育成する取組（東京都／母親／何でもいい）
- 学力の3要素が向上するカリキュラムに期待（東京都／母親／何でもいい）

＜高校生の不安＞

- その変化に自分がついていけるか（愛知県／男子／大学）
- 話したり自分の考えを見つけたりするのが苦手だから、学び合う授業は不安（和歌山県／女子／大学）

＜保護者の不安＞

- 今まで先生主導だったので上手に受け入れられるか（北海道／母親／専門学校）
- 教育者（教員）側が十分対応できるか。とり残される子どもがいるのではないかと（山梨県／父親／大学）

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は、高校生[都道府県／性別／希望進路]、保護者[都道府県／続柄／希望進路]

保護者の4割が
改革への対応は「わからない」

それでは実際に、高校生自身、あるいは子どもが通っている高校で教育改革への対応を行っていると感じるかどうかをたずねてみた（図3）。

高校生では「感じている」という割合が38%で最も大きかったが、保護者は「わからない」の41%が最多で、「感じている」は24%にとどまった。高校の対応

は、保護者にはまだしっかりと伝わっていない現状が浮かび上がった。

では「感じている」と回答した人は、どのような取組に具体的な変化を感じているのだろうか（図4）。

高校生では1位「学んだことや経験したことを振り返り、次の目標を立てる」(57.8%)、2位は「先生が知識を教え込む授業から、生徒が主体的に考え、学び合う授業に変わる」(50.8%)、3位は「生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される」(47.5%)、4位は「ICT技術を活用し、一人ひとりが最適な学習内容と進度で学べるようになる」(10.3%)、5位は「生徒自身が基礎学力の定着を把握し、今後の学習活動につなげる「高校生のための学びの基礎診断」が始まる」(9.7%)。

期待に反し、在籍校の改革への 取組の認知はまだ低い結果に

育成など、これからの社会を生きる子どもたちのための教育改革には高い

期待が寄せられていることがわかる結果となった。

らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される」(48%)であった。「学びの基礎診断」や、前問で非常に期待の高かった「ICT技術の活用」は1割と低くなっている。

一方、わが子の在籍校での教育改革への対応を感じている保護者の結果を見ると、1位は「探究学習」(46%)、2位は「生徒が主体的に考え、学び合う

授業」(41%)、3位は「ポートフォリオ」(35%)となった。

せっかく高校が熱意をもって進めている教育改革の取組も、保護者に認知されていなければ支持してもらえず、推進のエンジンも加速しない。改革への取組と並行して、どのように保護者に伝えていくかが、大切なポイントになっていくと思われる。

図3 在籍している高校での教育改革への対応を感じるか（高校生・保護者／単一回答）

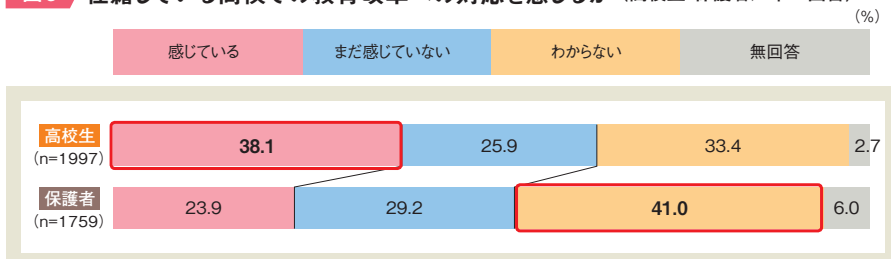
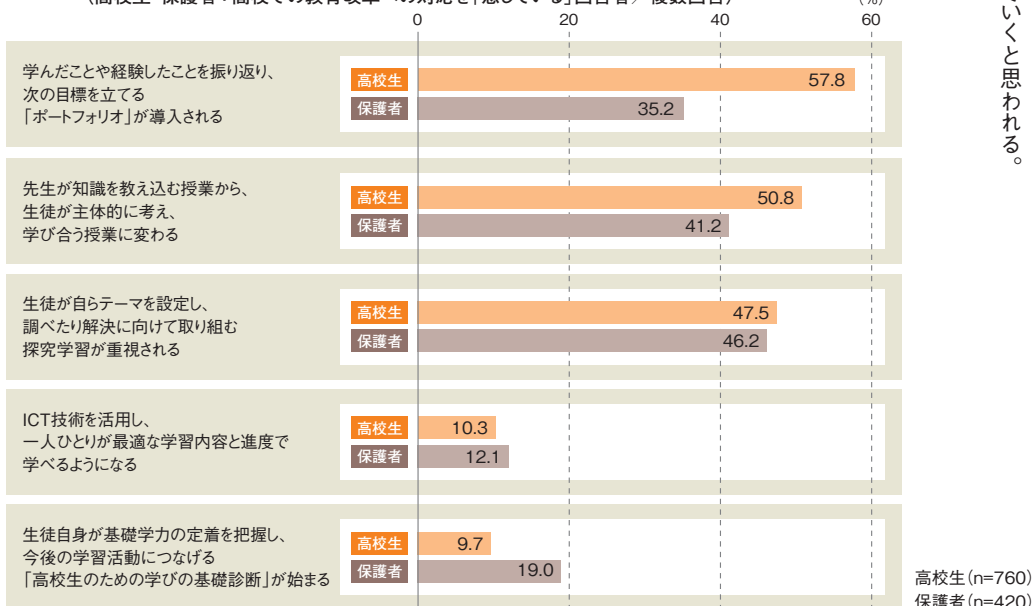


図4 具体的に変化を感じる取組内容
(高校生・保護者：高校での教育改革への対応を「感じている」回答者／複数回答)



※高校生のスコアの降順ソート

子どもの進路選択へのアドバイスと関わり方

アドバイスの「難しい」保護者73%

うち「非常に難しい」が22%

難しいと感じる理由トップは「入試制度を知らないから」

保護者に子どもの進路選択へのアドバイスの難しさの程度をたずねたところ(図5)、73%が難しいと感じており、うち「非常に難しい」の割合は22%で前回から2ポイントアップしている。

アドバイスが難しいと回答した保護者に理由をすべて選んでもらったところ(図6)、「入試制度をはじめ最新の進路情報を知らないから」が前回調査に引き続きトップで、46%から9ポイントアップの55%へと大きく増加、調査開始以来初めて半数を超えた。保護者に子どもの進路選択について気がか

不安な入試の情報収集を中心に
進路選択行動に関与を強める保護者

5割の保護者が具体的な受験校をアドバイス。2年前より大幅増

ここでは進学希望の保護者に子ども

りなことを書いてもらったコメントからも「新しく導入される共通テストについて各大学の方針が不明確だったり、情報量が少ないこと」など、最新の入試制度の情報不足からアドバイスが困難と感じている様子がうかがえる。2位は「社会がどのようなようになっていくのか予測がつかないから」(44%)と前回同様。フリーコメントにも「社会の変化が激しく、5年先の社会がどのようなようになるか予測不能なため、大学を出ても仕事があるのか不安」などの声が上がっていた。3位も前回と同じく「家庭の経済的な理由で、子どもの進路の選択肢を狭めざるを得ないから」となった。

もの進路選択行動への関わり方についてたずねた(図7)。「行ったことがある」行動の1位は「子どもに合う分野をアドバイスする」(67

図5 子どもの進路選択へのアドバイスの難しさ(保護者/単一回答)

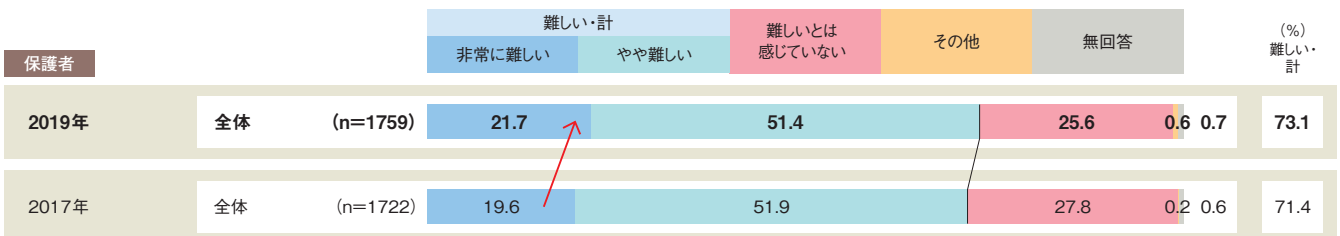
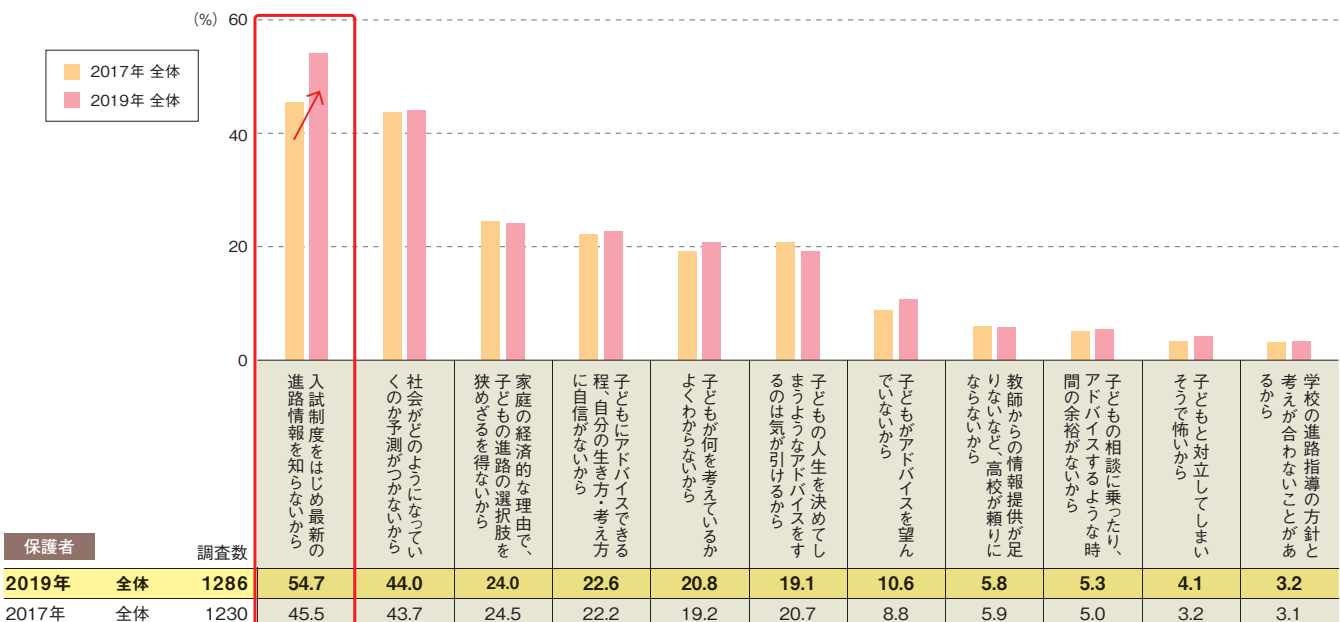


図6 アドバイスが難しい理由(保護者:図5=アドバイスが「非常に難しい」「やや難しい」回答者/複数回答)



※「2019年全体」降順ソート

％、以下2位「将来の職業をアドバイスする」(61％)、3位「どんな学部、学科、コースがあるかを調べる」(58％)と続く。

「一緒に考えたい」「情報を知らない」と会話できない」が2大理由

どちらも前回より上昇している。入学者選抜の変化を前に大きな不安を感じる子どもを早くからサポートしようと、保護者自らがさまざまな情報収集を行い、具体的な策まで子どもと一緒に話し、進路選択行動を子どもと共に進めようとしている。そんな保護者の気持ちがうかがえる結果となった。

前回と比較すると、多くの行動について「行ったことがある」という割合が増加している。特に「具体的な受験校を子どもにアドバイスする」を行った割合が、前回の35％から53％へ18ポイントアップと大きく上昇した。また、1位の「子どもに合う分野をアドバイスする」が7ポイント、3位の「どんな学部、学科、コースがあるかを調べる」も8ポイント上昇している。そのほか、「興味をもった学校の見学に行く(オープンキャンパス・学校見学会を含む)」、「興味をもった学校の入試方法を調べる」がいずれも8ポイント増え、自ら情報収集をして子どもをサポートする保護者が増えていることがわかる。

また、「行ったことがある」と「今後行きたい」を合計すると、1位は「興味をもった学校の入試方法を調べる」、ついで「どんな学部、学科、コースがあるかを調べる」、「子どもに合う分野をアドバイスする」までが僅差で続き84〜85％で並ぶ。

合計値の変化傾向を見ると前回並みが多く、一部では減少している項目もある。既に「行ったことがある」が増えていることを併せて考えると、進路選択行動への保護者の関与が早まっていることもうかがえる。

図7 進路選択行動への関わり方 (保護者：子どもを進学させたい希望者／各単一回答)

保護者	2019年全体 (n=1123) 2017年全体 (n=1192)	行った・行う意向・計				(%) 行った・ 行う意向・ 計
		行ったことがある	行ったことはないが、今後行いたい	行ったことはなく、今後も行うつもりはない	無回答	
子どもに合う分野をアドバイスする	2019年 67.0 2017年 60.2	17.4 23.7	10.8 11.9	4.9 4.3		84.3 83.8
将来の職業をアドバイスする	2019年 61.2 2017年 60.4	18.4 23.9	16.0 11.2	4.4 4.5		79.6 84.3
どんな学部、学科、コースがあるかを調べる	2019年 57.7 2017年 49.9	27.4 35.7	10.9 9.7	4.0 4.6		85.1 85.7
就職か進学かを選ぶ際にアドバイスする	2019年 54.2 2017年 59.1	12.7 15.0	27.3 21.2	5.7 4.7		67.0 74.1
子どもに合う学校にどんな学校があるかを調べる	2019年 53.0 2017年 47.3	30.5 35.9	12.2 12.4	4.4 4.4		83.4 83.2
具体的な受験校を子どもにアドバイスする	2019年 52.9 2017年 34.7	25.0 41.1	17.4 18.9	4.7 5.3		77.9 75.8
大学が短大か専門学校かを選ぶ際にアドバイスする	2019年 50.9 2017年 55.9	16.5 16.4	27.2 22.8	5.4 4.9		67.4 72.3
興味をもった学校の見学に行く(オープンキャンパス・学校見学会を含む)	2019年 46.9 2017年 39.2	33.5 41.6	15.9 15.7	3.7 3.5		80.4 80.8
興味をもった学校の入試方法を調べる	2019年 43.5 2017年 35.5	41.8 49.7	10.4 10.5	4.4 4.3		85.2 85.2
興味をもった学校の資料請求をする	2019年 30.5 2017年 27.6	42.2 46.5	22.4 21.1	4.9 4.9		72.7 74.1

※2019年「行ったことがある」降順ソート
※2019年「行った・行う意向・計」が80%以上の数値を黄色で表示

図8 保護者が進路選択行動に自ら関わる理由 (保護者：子どもを進学させたい希望者、かつ図7のいずれか「行ったことがある」「今後行いたい」回答者／複数回答)

保護者	調査数	理由												
		子どもと一緒に考えたいから	具体的な情報を知りたいから	子どもがやりたいことを見つけられないから	よりよい選択肢があるのに子どもが気づいていないから	子どもが進路について行動しないから	子どもの考えが甘いから	子どもに求められたから	子どもよりも情報収集が得意だから	大人の目で判断した方がよいから	最近の進路選択は子どもには荷が重過ぎる	保護者の方が子どもの適性をわかっていから	高校の先生に勧められたから	周りの保護者がやっているから
2019年 全体	1058	70.7	60.1	21.6	17.6	14.7	12.5	10.6	8.4	7.9	4.3	3.7	2.3	0.9
2017年 全体	1103	68.1	55.7	22.3	14.7	13.9	12.9	8.3	6.3	6.5	3.7	3.8	2.3	0.7
2019年 父親	115	66.1	60.0	26.1	16.5	13.0	13.9	10.4	6.1	11.3	4.3	6.1	2.6	—
2019年 母親	920	71.4	60.2	21.3	17.6	14.9	12.3	10.7	8.7	7.5	4.3	3.5	2.3	1.0

※「2019年全体」降順ソート

教育改革を踏まえて変わる

親子のコミュニケーション

主体性を育みチャレンジを促し
社会の動きを考えさせる

次に日常生活での子どもとのコミュニケーションや行動について見ていく。

図9の14項目について日常であてはまるかどうかを選んでもらったところ(棒グラフ参照)、「1位は『あなたはどうしたい』『あなたはと思う』とお子さんの意見を尊重している」(76%)、2位「『自分で選択し、それに責任をもつ』ことが大切だと言っている」(74%)、3位「お子さんが悩んでいた、うまくい

っていないときに励ます」(70%)と続くが、8項目が5割を超え、ポジティブな働きかけを日常的に行っている保護者が多いことがわかった。

では前段の教育改革を踏まえるとこの日常行動に変化は生まれるのだろうか。「教育改革を踏まえ『特に今後心掛けたい』と思うこと」を選んでもらったところ(折れ線グラフ参照)、1位は「『自分で選択し、それに責任をもつ』ことが大切だと言っている」(30%)。「お子さんがチャレンジできる機会を創ったり、増やしたりしている」(28%)、

3位「ニュースや社会の動きなどについて一緒に考えたり会話している」(26%)、4位「『あなたはどうしたい』『あなたはと思う』とお子さんの意見を尊重している」(24%)までが僅差で続いた。なかでも日常生活では4割に満たなかった「チャレンジする機会の創出や増加」を、教育改革を踏まえて特に今後心掛けたいとする保護者の意識変化に注目したい。

子どものやる気を高めるために心掛けていること(フリーコメント3)を見ても、「失敗してもまた再チャレンジすればいいと励ましている」「知らない世界がたくさんあることを伝えるようにしている」など、意識的に自立やチャレンジを促すことを心掛けている回答も散見された。

社会で必要とされる能力の育成に期待

「主体的に学ぶ授業」と「探究学習」

将来必要だが現在不足している
「主体性」「発信力」「実行力」

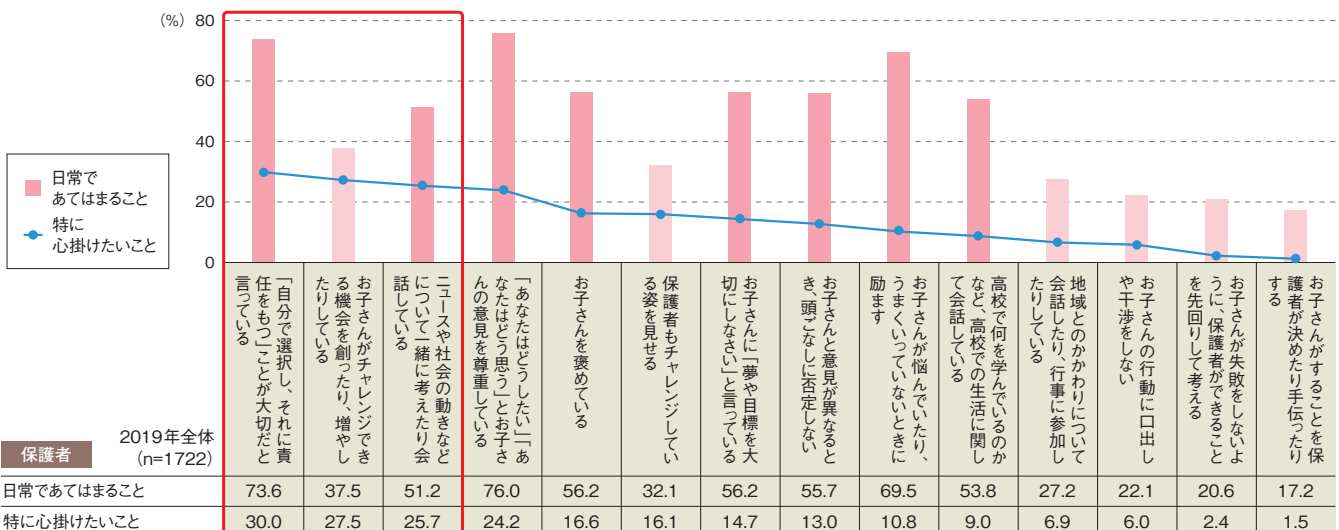
では、高校教育に対して保護者はどのような期待や要望をもっているのだ

うか。社会で働くにあたって必要とされる能力を経済産業省が定義する『社会人基礎力』から12の能力要素を提示し、高校生と保護者にそれぞれ「必要とされるか」「それを現在持っている

か」をたずねた(図10)。保護者が考える必要な力の上位3項目は「主体性」「実行力」「規律性」、高校生は「主体性」「実行力」「発信力」であった。現在持っている力とのギャップで不足度合いが大きかったのは、親子とも「主体性」「発信力」「実行力」となった。

ではそれら社会で必要とされる力を身に付けるために学校生活を中心とした活動全般の中でどんな場が有効と思うかを保護者と高校生双方にたずねたのが図11だ。

図9 子どもとのコミュニケーションや行動：「日常であてはまること」と「教育改革を踏まえて特に心掛けたいこと」
(保護者／あてはまることは複数回答、心掛けたいことは3つまでの複数回答)

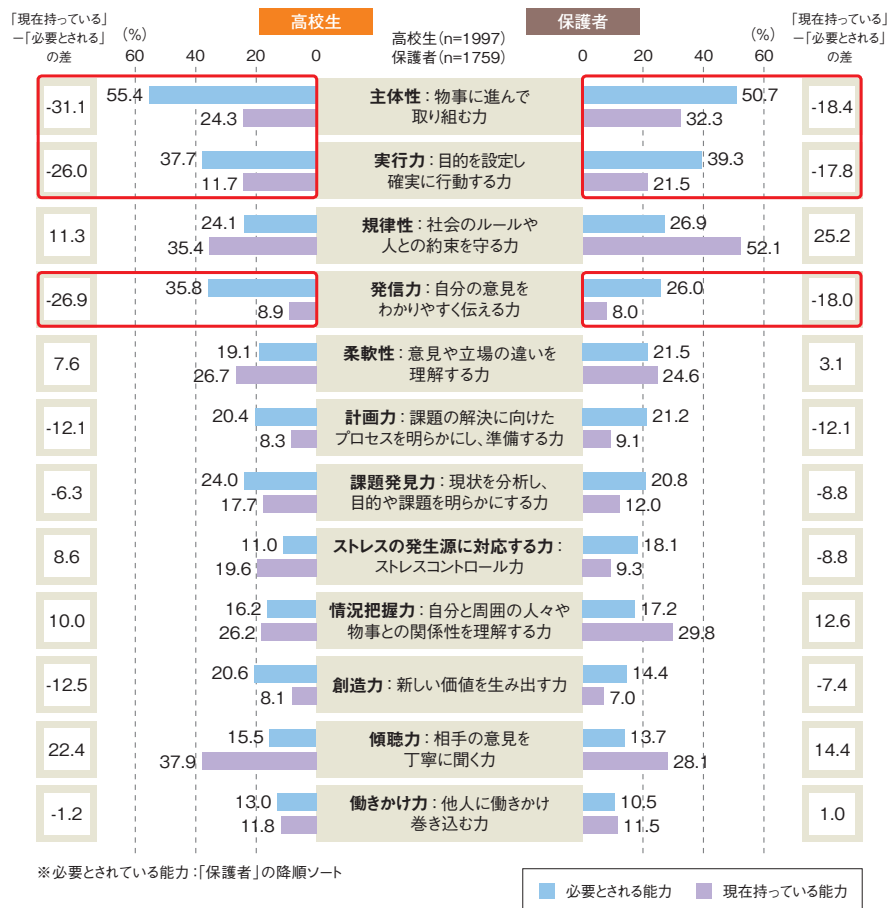


※「特に心掛けたいこと」の降順ソート

※「日常であてはまる」は「とてもあてはまる」「あてはまる」の合計

※棒グラフの色が濃いものは50%以上の項目

図10 社会で働くにあたって必要とされる能力と現在持っている能力
(高校生・保護者／3つまで回答)



高校生は前回同様1位「部・クラブ活動の時間」、2位「文化祭や体育祭などの学校行事」だが、「教科の時間（生徒が中心となって主体的に学ぶ授業）」が前回（41%）から12ポイントも上昇し3位となった。

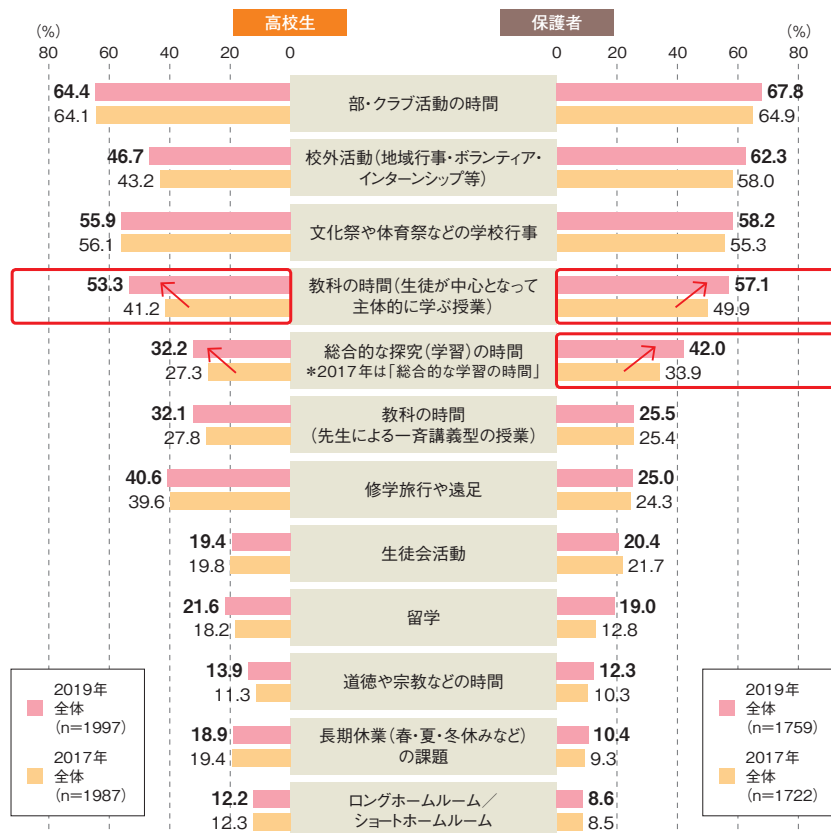
保護者も「部・クラブ活動の時間」が前回同様1位で、「校外活動（地域行事・ボランティア・インターンシップ等）」「文化祭や体育祭などの学校行事」と

続くが、やはり「教科の時間（生徒が中心となって主体的に学ぶ授業）」が前回より7ポイント上昇している。授業改革は将来社会で必要とされる能力を身に付ける場として高校生・保護者共に期待が高まっていることがわかる。

また「総合的な探究（学習）の時間」も、保護者では8ポイントアップの42%と大幅に増加し、期待の大きさが表れている。

「主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）」と「探究学習」は共に今回の教育改革の柱だが、どちらも将来必要な能力を育成する場として注目が高いことがうかがえる結果となった。「未来社会を生き抜くために必要な能力の育成」に取り組み、それを保護者に対してしっかり情報提供していくことが高校に求められているのではないだろうか。

図11 学校生活において社会で必要とされる能力を身に付けるために有効な場
(高校生・保護者／複数回答)



フリーコメント3

子どものやる気やモチベーションを高めるために心掛けていること

- たとえ失敗しても挑戦したり、やり切ったりしたことを褒める（山梨県／母親／男子）
- まずは自分で考え、行動させる。助けを求められてから手を貸す（青森県／母親／男子）
- 失敗しても、また再チャレンジすればいいと励ましている（鳥取県／母親／女子）
- 相談には乗るが、最終決定は本人に決めさせる（東京都／母親／女子）
- 息子の行動や言動を否定せず、理解するよう努力している。いいと思うところを褒めるようにしている（愛知県／母親／男子）
- 本人がやりたいと思ったことは、やらせるようにしている。いろいろな場所へ連れて行き、知らない世界がたくさんあることを伝えるようにしている（石川県／母親／男子）

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は「都道府県／続柄／子どもの性別」